

新刊ピックアップ

●『阪田寛夫詩集 ねこふんじゃった』 朝日放送社員としてラジオ番組を手掛ける一方で、芥川賞を受賞し、詩人



や作詞家としても名をはせた故・阪田寛夫さんの作品集。

「サッチャー」「おなかのへるうた」など童謡になって子どもたちの心をつかんだ詩のほか、大好きな宝塚への思いを込めた作品や、老老介護のつらさをつづった作品など、バラエ

ティー豊かな56編を収録している。

(童話屋・1650円)

●尾崎俊介著『14歳からの自己啓発』

著者は『S先生のこと』で第61回日本エッセイスト・クラブ賞を受けた愛知教育大教授(米文学、米文化)。この本自体が自己啓発本とい

うわけではない。市場にあふれる自己啓発本について、自身の約10年にわたる研究をもとに、その特性を論じる内容。

「あやしい」と一刀両断にせず、これらが売れる社会のあり

ようを文化的な側面から分析。ユーモアを感じさせる言葉で、向き合い方を提案している。(トランスビュー・2420円)



●『世界の美しい美術館』 豪華絢爛

(けんらん)な宮殿を利用したルーブル美術館(フランス)やエルミタージュ美術館(ロシア)、奇抜な現代建築が目をはくグッゲンハイム・ビルバオ(スペイン)



ン)やイスラム美術館(カタール)など、「美しい」をテーマに集めた世界の美術館84館を写真で紹介。日本からは、黒川紀章さんが設計した国立新美術館(東京)のほか、三鷹の森ジブリ美術館(同)、松本市美術館(長野)の3館を掲載している。

(パイインターナショナル・2035円)